

令和3年度第2回 長野市廃棄物減量等推進審議会 議事録【要旨】

【開催概要】

開催日時：令和3年9月3日（金）午前10時から12時まで

開催場所：ふれあい福祉センター5階 ホール

【次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 環境部長あいさつ
- 4 議 事
 - (1) 長野市一般廃棄物処理基本計画について
 - (2) 一般廃棄物（ごみ）処理手数料の見直しについて
- 5 その他
- 6 閉 会

【会議資料】

- ・資料1 長野市一般廃棄物処理基本計画（概要版 ごみ処理基本計画）
- ・資料2 長野市一般廃棄物処理基本計画（概要版 生活排水処理基本計画）
- ・資料3 長野市一般廃棄物処理基本計画（本編）
- ・資料4 一般廃棄物（ごみ）処理手数料の見直しについて
- ・長野市廃棄物減量等推進審議会名簿

【出席委員】 12名

【欠席委員】 3名

【事務局】 11名

【報道・傍聴者】 0名

【会議内容(要旨)】

1 開 会

- ・会議の成立と公開について報告（事務局）

2 会長あいさつ

審議会の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。

県下でもコロナウイルスの警戒レベルが上がっている状況だが、事務局と相談し、感染対策を徹底した上で開催することとした。ソーシャルディスタンスを取りながら換気やマイクの消毒などの対策を行うので、委員におかれても感染予防にご協力をお願いしたい。

本日は、長野市一般廃棄物処理基本計画とごみ処理手数料について審議する予定。

ごみ処理手数料は3年ごとに審議しているが、前回の見直しの際には原価計算に基づき不燃ごみの直接搬入手数は値下げとした。今回についても事務局で具体的な原価を整理しているので、皆さんと確認していきたい。

どうぞよろしく願います。

3 環境部長あいさつ

審議会開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

会長の挨拶にもあったが、新型コロナウイルスの警戒レベルが先月半ばから上がっているが、会長と相談し、感染予防対策を講じた上で、本日より開催させていただくこととした。

本日は、長野市一般廃棄物処理基本計画とごみ処理手数料についてご審議いただく。基本計画は、数値目標と施策の基本方針についてご審議いただきたいと思う。

また、ごみ処理手数料については、本日ご審議いただいた後、次回10月の審議会において市長への答申案をご決定いただきたいと思いますと考えている。

本日は、委員の皆さまの幅広い見識の中から、ご意見をいただければと思う。どうぞよろしく願ひ申し上げます。

4 議 事

(1) 長野市一般廃棄物処理基本計画について

◇資料1及び2「長野市一般廃棄物処理基本計画（概要版）」により説明（事務局）

（会長） 何かご質問等ありましたらお出しいただきたい。

<以下、質疑応答>

（河西委員）資料1シート7に国内食品ロスと国内食品ロス（一般廃棄物）との両方の表示があるが、この違いを教えてください。

（事務局）国内食品ロスと国内食品ロス（一般廃棄物）の違いは、産業廃棄物を含んでいるかどうかによる。

なお、平成27年度から平成30年度までの4か年の国内食品ロスの動きと長野市の事業系一般廃棄物の動きとの連動性が認められるならば、平成12年度まで遡り長野市の事業系食品ロス量が推計できると考えたが、結果として認められなかった。

このため、今回の計画では、事業系可燃ごみ全体を削減することで食品ロスの削減を図ることとした。

ただし、今回事業系可燃ごみ削減目標については、従業員一人一日当たり10グラム減らす取組を進めることで、数値目標を達成したい

と考えている。事務局とすれば、がんばればできるかなという感覚であるので、委員の皆さまから 10 グラムというところにご意見をいただけると助かる。

(笠原委員) 資料 1 シート 5 のグラフを見ると、事業系ごみが多いように見える。それに対して削減目標は 670 トンというのは少ないように見える。従業員一人一日当たり 10 グラム削減すると 670 トン達成できるということか。

(事務局) このグラフは、一番下の目盛りが 5 万トンになっているため、実際には事業系ごみより家庭ごみの方が多い。

事業系ごみの削減に関する取組には難しいところがあると感じている。例えば、単に事業系ごみを 1,000 トン削減する目標を掲げても、企業 1 社 1 社は他人事に感じてしまう。そこで、今回は従業員というところの的を絞って積算し、削減目標を算出した。

(笠原委員) 家庭ごみに対し、事業系ごみはコントロールしにくいということはわかった。もし排出抑制効果が図れない場合は、最終的には事業系ごみの料金を上げるしかないと言うところか。他の自治体の状況についてもわかっていれば教えていただきたい。

(事務局) 事業系ごみは、どの自治体でも削減には課題があるのが現状。長野市の場合、料金についてはごみ処理原価の 100%を負担いただいているため、適正な排出抑制ができていると思っている。

(笠原委員) 二酸化炭素の排出量については長期目標があるが、ごみにはないのか？2030 年度を見据えた設定をすれば良いのではないか。

(事務局) 事業系ごみについては、2030 年度の排出目標が国においても示されていない。事業系ごみは景気との関連があるので予測がしづらいが、今回は 670 トンの削減目標を設定させていただいたところ。

(徳武委員) 5 年間で従業員一人一日当たり 10 グラム削減をどのように達成するのかお聞きしたい。長野商工会議所が事務局になっているエコ活動推進本部でも参考にさせていただく。

(事務局) 資料 3 計画本編の 94 ページに一口コラムを掲載し、減量のヒントを掲載させていただいた。従業員一人ひとりが気付くことが重要と考えている。

(須田委員) 資料 1 シート 4、シート 5 でベースにしている人口はどのように推計したのか。自然減又は努力減なのかも明記してもらえるとわかりやすい。また、事業系ごみは人口による自然減はないので、それも明記した方が良いと思う。

次に、最終処分量であるが、長野広域連合で当初計画していたものでは、灰は全て溶融し埋め立てるものはゼロになる計画であったように記憶している。最終処分量を数値目標としているということは、灰を選別した残さということで良いか。

(事務局) 人口の記載については資料のスペース上、概要版には掲載すること

ができなかった。資料3計画本編の92ページに算出データを網羅している。

なお、人口推計値は、現在の長野市総合計画前期基本計画策定の際に算出した数値になり、人口減少対策を講じた上での推計値としている。

また、資料1シート6の事業系ごみ排出量は、日量から算出している。事業系ごみは、1日当たり110トン発生しており、削減目標を設定する際は従業員一人一日当たり10グラム削減とさせていただいた。

続いて、シート9の最終処分量であるが、お見込みのとおり今後も処分が見込まれる。長野広域連合で建設したエコパーク須坂では、灰溶融炉で作られたスラグのほかに溶融不適物を処分している。平成27～28年度には1万トン余りを処分していたものが、ながの環境エネルギーセンターの稼働に伴い、4分の1程度に処分量が圧縮されている。これが新しい焼却施設の特徴と言える。

(河村委員) 先ほどの質問でもあったが、5年間で従業員一人一日当たり10グラム削減を達成するために、できれば業種ごとに10グラムを例示できるとより明確になると思う。さらに、10グラムは1日に出すごみの何パーセントになるのかを示すことができれば効果的かと思う。

次に生活排水について質問する。資料2シート3の計画処理区域内人口は23,000人あまり減少し、生活排水処理率が97.7%になるとある。その際に、非水洗化人口が10,000人減少している理由は何か。シート4に推移が掲載されているが、生活排水処理率がH27に92.3%、R2に95.0%で2.7ポイント増加しているため、R8も2.7ポイント増加するとして97.7%としたのか。計算根拠を教えてください。

(事務局) 業種別の具体例は今後研究させていただく。

資料2シート3の2.7ポイント増加の理由は、平成29年度に施行した「長野市下水道10年ビジョン」において平成82年度まで推計した公共下水道、農業集落排水及び戸別浄化槽利用人口等を行政区域内人口から差し引いた値をくみ取り人口とした結果であり、増加幅が同じになったのは偶然である。

(宮入委員) 例えば、煎餅1つ買ってきても、1つ1つ個包装されていて、それがトレーに乗って、さらに包装されて売られている。最近マイバッグなどを持参しているが、それまではレジ袋に入れて買って来ていた。ごみを減量するにも個人の取組には限界があると思うので、事業者にも協力してもらわなければならないと思う。

次に、最近知ったのだが、須坂市では「私は生ごみを入れません」と言うと、指定袋が安価もしくは無料で手に入るとのこと。長野市でも減らせと呼びかけても変わらないと思うので、目先を変えれば結果が出てくるのではないか。

(事務局) 須坂市の「生ごみ出しません袋」については承知している。今後の

参考とさせていただきます。

(高橋委員) 食品ロスとは、どの範囲を食品ロスと呼んでいるのか。生ごみでも調理くずなどは食品ロスになるのか。

(事務局) 食品ロスの定義としては、「まだ食べられるのに捨てられたもの」になる。従って、調理くずがそのまま食品ロスになるのではなく、過剰除去部分などがあると食品ロスとなる。また、よく見かけるものでは未開封のまま直接廃棄されたものが食品ロスとなる。ご家庭でごみ減量に取り組んでいただく際は、神経質になりすぎずにもったいなくない生活を心掛けていただければと思う。

(2) 一般廃棄物（ごみ）処理手数料の見直しについて

◇資料4「一般廃棄物（ごみ）処理手数料の見直しについて」により説明（事務局）

(会長) 何かご質問等ありましたらお出しいただきたい。

<以下、質疑応答>

(須田委員) 資料4シート12「一時的に多量に排出されるごみ」で区分している2トン車については、民間で保有する車両台数が減少している理由について説明していただきたい。

(事務局) 法律上、市が手数料を設定した場合、その額が許可業者が料金設定する際の上限となる。近年、道路交通法が一部改正され、これまでは普通自動車免許で運転できていた2トン車が、準中型自動車免許がないと運転できなくなった。若者が運送業に就職した場合、改めて準中型自動車免許を取って運転している。準中型自動車免許の区分の中で2トン車が一番小さい車種になるため、事業者は保有しても効率が悪いことから3トン車等に移行している実情があるため、説明させていただいた。

(須田委員) 民間の実情に合わせて今後、条例も対応していった方が良いと思う。

(河村委員) 今の意見に関連するが、料金徴収の際、車1台分等ではなく、実際の重量によって徴収する料金体系にすることは可能であるのか。今回はこのような料金で良いが。

(事務局) 現状の運用では、ごみを取りに行った際にその場で料金を徴収している。ごみを運んで、トラックスケールで重量を測ってから料金を徴収する運用にはしていない。

5 その他

◇「信州子ども食堂ネットワークイベント」開催のお知らせについて説明（事務局）

本日の議事録は、事務局でまとめたものをお送りし、承認後に公開したい。簡単

な日時や概要等をまとめた簡易的な開催結果と本日の資料は、別途ホームページで公開させていただく。(事務局)

6 閉 会